



～品川史跡めぐり～



長応寺(ちょうおうじ) 小山1-4-15

文明11年(1479)に、三河国(現愛知県)の豪族鵜殿氏によって、西郡(現愛知県蒲郡市)に創設されたが、その後、全国的な規模で移転を繰り返した珍しい寺である。

戦国時代の混乱のなかで荒廃した寺は、江戸時代の初期に、西郡局によって、江戸日比谷に再建された。江戸市中で何度か移転したあと、寛永12年(1635)に芝伊皿子(現港区)に落ち着いた。その後明治35年(1902)に北海道天塩、さらに明治40年(1907)に現在地に移転した。

現在地でも、関東大震災、隣接工場の出火、戦災と何度も被災し、現在の本堂は昭和30年(1955)の建築。

山門は、昭和4年(1929)に、新潟の宮大工南部四郎によって建てられたもので、区内屈指の大きさと優美さを誇る。

出典：しながわの史跡めぐり(品川区教育委員会)

～地名の由来～



その名の由来をひもとけば、街は古の姿を現し
私たちは積み重ねた時の落景の上になつことを知る

シリーズで区内の地名を紹介しています

《滝王子(たきおうじ)》

昔、この地に滝氏という長者が住んでおり、王子権現を稻荷の相殿として祭っていた関係から合わせて滝王子と呼ぶようになったといわれる。

《出石(いずるいし)》

字名の起源は不明。元禄の検地帳に出石耕地と記されていたといわれる。

出典：品川区政50周年記念誌 しながわ物語(品川区企画部広報広聴課)